

第26号 特許法第104条の3に関する研究  
〔別冊パテント第2号 発行日：平成22年2月8日〕

目 次

・特許権侵害訴訟におけるクレームの解釈と無効理由の審理判断－公知技術の参酌を中心として－	大瀬戸豪志	1
・侵害訴訟中における特許の有効性判断（特許法104条の3）の構造－米独との比較考察－	大友 信秀	12
・「特許侵害訴訟における特許発明の技術的範囲の認定」と「無効抗弁における発明の要旨認定」におけるクレーム解釈のあり方	伊藤 晃	20
・特許法104条の3に関する攻撃防御について	竹下 明男	43
・特許法123条・104条の3の解釈運用等に関する一考察－特許権の法的安定性の観点より－	松田 一弘	55
・104条の3の抗弁を巡る実務上の幾つかの検討点－ダブル・トラックの是非論に関連して－	三山 峻司	79
・特許の有効性を巡る裁判所と特許庁の判断の齟齬（再審の議論を中心に）	岩坪 哲	105
・特許法104条の3の有効活用に向けて－ダブル・トラック現象・再審制度と紛争の一回的解決の調和－	重富 貴光	121
・特許権者による訂正の主張を巡る問題	鈴木 將文	146
・記載要件（発明開示要件）違反と特許法104条の3	平嶋 竜太	166
・特許法104条の3の抗弁に対する一事不再理効の適用の可否に関する検討	小山 靖	198

- ・米国における特許権の有効性判断 井関 涼子 214
- ・特許法104条の3に基づく抗弁と無効審判との関係－ドイツの制度と対比した検討－ 川上 桂子 229
- ・商標法におけるキルビー抗弁・権利行使制限の抗弁（特104条の3抗弁）に関する問題点 宮脇 正晴 241
- ・特許法104条の3の商標法における意義 松井 宏記 248

研究員（敬称略、役職は報告書作成当時）

会員外研究員 鈴木 將文（名古屋大学大学院法学研究科教授）

大瀬戸 豪志（甲南大学法科大学院教授）

井関涼子（同志社大学法学部法律学科教授）

大友信秀（金沢大学人間社会研究域法学系教授）

松田一弘（京都大学大学院法学研究科教授）

宮脇正晴（立命館大学法学部准教授）

平嶋竜太（筑波大学大学院ビジネス科学研究科企業法学専攻准教授）

会員内研究員 伊藤晃（弁理士）

松井宏記（弁理士）

三山峻司（弁護士・弁理士）

竹下明男（弁理士）

川上桂子（弁理士）

小山靖（弁理士）

岩坪哲（弁護士・弁理士）

重富貴光（弁護士・弁理士）